

2013年3月期 第1四半期 決算報告

2012年8月3日

株式会社クレスコ
経営企画室

1.1. 決算のトピックス

連結

▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⊕ 売上高 … 43億36百万円 (前年同期比 11.4%増)
- ⊕ 営業利益 … 1億69百万円 (前年同期比 3.1%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	前年同期を55百万円上回り、16億60百万円(前年同期比3.5%増)
	公共・サービス分野	前年同期を1億19百万円上回り、11億7百万円(前年同期比12.0%増)
	流通・その他の分野	ソラン北陸の子会社化等により増加 前年同期を1億88百万円上回り、8億23百万円(前年同期比29.8%増)
組込型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	前年同期を35百万円上回り、2億35百万円(前年同期比17.5%増)
	カーエレクトロニクス分野	前年同期を95百万円下回り、2億35百万円(前年同期比28.9%減)
	情報家電等・その他の分野	前年同期を1億49百万円上回り、2億60百万円(前年同期比134.6%増)
商品・製品販売		前年同期を下回り、13百万円(前年同期比41.3%減)

▶ 連結財政状態に関する主な事項

- ⊕ 総資産 … 117億79百万円 (前期末比6億32百万円減)
- ⊕ 自己資本比率 … 63.8% (前年度末 61.6%)

1.2. 第1四半期の振り返り

単体

全般傾向

- ❖ **ビジネス系のソフトウェア開発**
お客様の引き合いや案件は、前期に引き続き増加傾向にあるものの、中小案件が多く、受注競争も厳しい。
- ❖ **組込型ソフトウェア開発**
通信システム分野、カーエレクトロニクス分野、情報家電等、全分野の要員稼働率が高水準に推移。
- ❖ **サービスビジネス事業**
クラウドサービスが堅調に推移、スマートフォン関係の案件も受注し、新事業に弾みをつけた。

課題

新規顧客の開拓、既存顧客の掘り起こし









ビジネスパートナーを含む技術者の確保

サービスビジネス商材の導入実績の積み上げ

1. 期末決算のポイント

1.3. 第1四半期の振り返り

子会社

	クレスコ・ イー・ソリューション	ERP (SAP/R3)の導入コンサルティングが前期に引き続き順調。 ソリューションビジネスも堅調。人材採用が課題。
	ワイヤレス テクノロジー	製品販売における大型案件への依存度が高く、受注が安定せず。 自社製品の開発・販売、受託開発案件も低迷。
	クレスコ・ コミュニケーションズ	収支が悪化していたマーケティングソリューション事業の譲渡を決定。 SI案件の拡充および新規事業の立上げが課題。
	クレスコ・ アイディー	主力のセキュリティロッカーの販売が低迷。 RFIDタグを利用した製品は、一般小売店舗でも販売を開始。
	アイオス	主力の受託ソフトウェア開発が順調に推移し、稼働率も回復。 プロジェクトの採算管理を強化し、収益性向上。
	クレスコ九州	地場企業の受注拡大により、堅調な伸び。 企業グループとの営業連携の他、製品販売やニアショア開発の実現が 課題。
	クレスコ北陸	独自のITソリューションを武器に、地場企業の深耕に注力し、受注拡大。 企業グループの連携によるサービス力強化が課題。
	科礼斯軟件(上海)	【注】 2012年7月1日に設立いたしました。 第2四半期より決算報告いたします。

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

【注】 2012年4月1日に「ソラン北陸」を子会社化し、2012年7月1日に「クレスコ北陸」へと社名変更いたしました。

2. 財務経営成績 等

2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨]

	2012年3月期 第1四半期 ＜実績＞	2013年3月期 第1四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2013年3月期 中間期 ＜2012/5/7公表＞
売上高	3,892	4,336	111.4%	9,200
売上総利益	602 (15.5%)	646 (14.9%)	107.3%	1,541 (16.8%)
営業利益	164 (4.2%)	169 (3.9%)	103.1%	550 (6.0%)
経常利益	199 (5.1%)	202 (4.7%)	101.6%	600 (6.5%)
四半期純利益	93 (2.4%)	132 (3.1%)	141.6%	320 (3.5%)
EPS 円/株	8.44	12.29	—	29.64

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

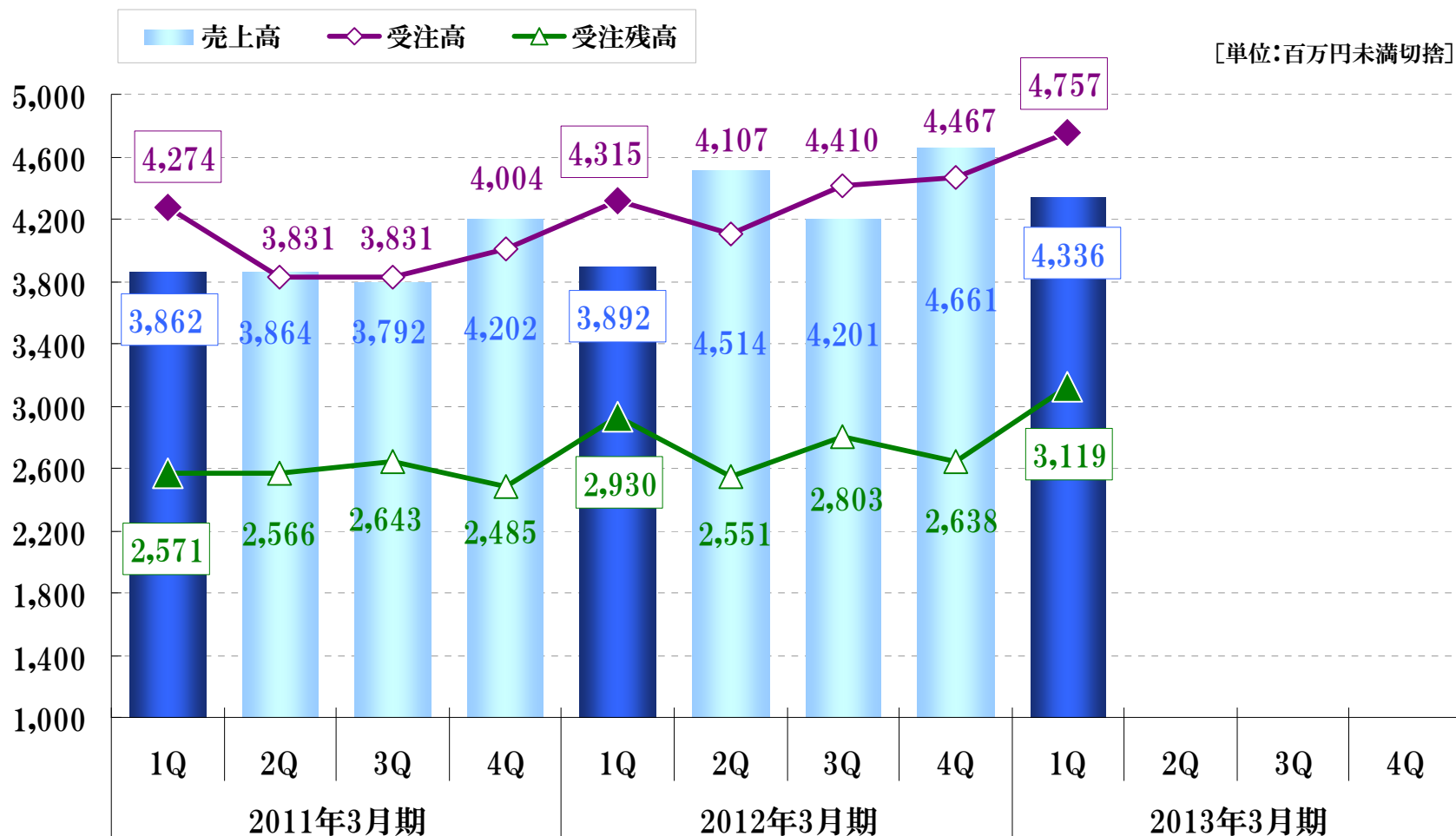
2.2. セグメント売上高の比較 連結

[単位：百万円未満切捨]

大区分	セグメント	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	増減	増減率
	小区分				
ソフトウェア	金融関連	1,604	1,660	55	3.5%
	公共・サービス	988	1,107	119	12.0%
	流通・その他	634	823	188	29.8%
	計	3,227	3,591	364	11.3%
組込型 ソフトウェア	通信システム	200	235	35	17.5%
	カーエレクトロニクス	331	235	▲95	▲28.9%
	その他	110	260	149	134.6%
	計	642	730	88	13.8%
商品・製品販売		22	13	▲9	▲41.3%
全計		3,892	4,336	443	11.4%

2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移

連結



2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨]

	2012年3月期 第1四半期 ＜実績＞	2013年3月期 第1四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2013年3月期 中間期 ＜2012/5/7公表＞
売上高	2,773	2,833	102.2%	6,350
売上総利益	416 (15.0%)	420 (14.8%)	101.0%	1,022 (16.1%)
営業利益	156 (5.6%)	140 (5.0%)	89.5%	450 (7.1%)
経常利益	238 (8.6%)	195 (6.9%)	81.9%	530 (8.3%)
当期純利益	148 (5.3%)	140 (4.9%)	94.6%	300 (4.7%)

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金: 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金: 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金: 50]	
	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期
売上高	320	350	31	30	34	41
売上総利益	70	79	4	▲5	7	7
営業利益	27	29	▲2	▲12	▲5	▲5
経常利益	27	30	▲2	▲12	▲4	▲4
当期純利益	15	21	▲1	▲7	▲3	▲2
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	86.0%	86.0%

2.5. 損益計算書 [要約]②

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・アイディー [資本金: 100]		 アイオス [資本金: 313]		 クレスコ九州 [資本金: 50]	
	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期
売上高	1	2	697	927	38	43
売上総利益	▲1	0	95	117	4	5
営業利益	▲13	▲8	5	30	▲2	▲0
経常利益	▲13	▲8	9	32	▲0	▲0
当期純利益	▲13	▲10	4	21	▲0	▲1
持分比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【注】「インフィニード」は、2012年4月1日に「クレスコ九州」へと社名変更いたしました。

2.5. 損益計算書 [要約] ③

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ北陸 [資本金: 50]		 科礼斯軟件(上海) [資本金: 70]	
	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期	2012年3月期 第1四半期	2013年3月期 第1四半期
売上高	-	137	-	-
売上総利益	-	19	-	-
営業利益	-	2	-	-
経常利益	-	2	-	-
当期純利益	-	2	-	-
持分比率	-	100.0%	-	-

【注】 2012年4月1日に「ソラン北陸」を子会社化し、2012年7月1日に「クレスコ北陸」へと社名変更いたしました。

【注】 2012年7月1日に「科礼斯軟件(上海)有限公司」を設立いたしました。第2四半期より決算報告いたします。

|3.1. 基本方針

次世代クレスコの創生
推進元年

3.2. 重点施策


- ▶ 「技術と品質のクレスコ」の推進
原点に回帰し、企業グループ全体の「品質マネジメント力」の底上げを実現する。
- ▶ サービス事業のビジネスモデル強化
オリジナル製品(セキュアダイブ、インテリジェントフォルダ等)の**拡販戦略**実行。
- ▶ グループ経営基盤の拡大と営業拠点の広域化
M&Aによる「**複合IT企業化**」の推進と、**地方マーケット**への参入。
- ▶ 海外事業の推進
海外進出する企業を支援すべく、**現地法人**を設立。
- ▶ 技術研究所の設立
時代を読み、トレンドをつかみ、人を育成し、**ビジネスを生み出す**専門部門を設立。

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など①

1 経営環境

当第1四半期連結累計期間(2012年4月1日～2012年6月30日)の経営環境は、復興需要等で消費マインドが持ち直し、設備投資や雇用も回復基調でありましたが、欧州債務危機や円高による景気の下ぶれ、電力問題といった懸念も多く、全体としては緩やかに推移いたしました。
情報サービス産業の4～6月のDI値(JISA調査)はプラスで、IT投資が回復傾向にあることが見て取れます。

2 海外事業をスタート

海外進出企業に対するソフトウェア開発を主軸とした支援およびアジア地区における当社の商圏拡大を図るため、中国に現地法人「 科礼斯軟件(上海)有限公司」を設立いたしました。
当社の主要事業でありますビジネス系ソフトウェア開発および組込型ソフトウェア開発で培った経験とノウハウを活かし、グローバルビジネスに挑みます。

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など②

3 マルチデバイスに対応したサービス展開

スマートフォンやタブレットPCの急激な普及をビジネス機会と捉え、ソーシャルネットワーク市場やモバイル分野の市場に挑むと共に、クラウド・サービス市場への更なる参入を目指してまいります。

また、「スマートフォンのセキュリティ強化」や「オフィスセキュリティ・情報漏洩対策」「事業継続と災害対策(安否確認含む)」「ERP(基幹業務の統合)の導入、見直し」「ソーシャルメディアや携帯端末を利用した業務改善」といった幅広いソリューションサービスを開発、展開してまいります。

4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。

なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目途に継続的に実現することを目指してまいります。

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業績や結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。